

認知症医療センターには、一般市民、専門職の方々へ認知症に関する情報を発信し、認知症の普及・啓発を促進するという重要な役割があります。センター便りとして定期的に情報を発信していきます

特集 レビー小体型認知症について

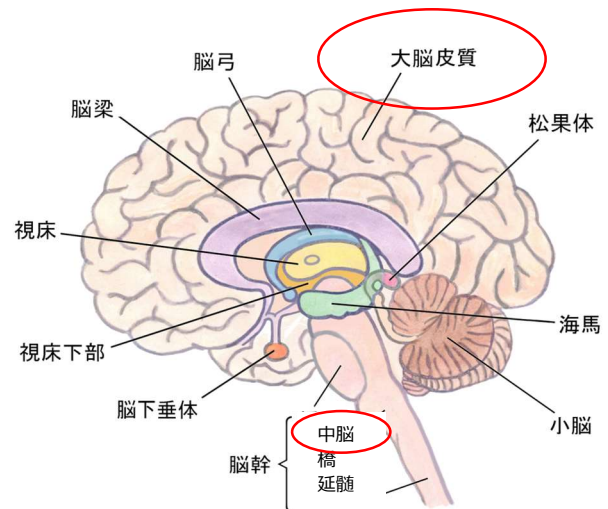
■ レビー小体型認知症とは

レビー小体型認知症は、1976年以降に日本の小阪憲司先生が数々の研究報告をしたことで国際的に知られるようになった病気です。

■ 原因

レビー小体（ α シヌクレイン）というタンパク質の塊が神経細胞にたまるのが原因で起こる認知症です。

レビー小体がたまるその他の病気として、運動が障害されるパーキンソン病という病気があります。2つは関連した病気ですが、大まかにはレビー小体が脳にたまる部位によって、運動が障害されるパーキンソン病（主に脳幹にたまる）と、運動の障害と認知症の症状がみられるレビー小体型認知症（主に大脳皮質にたまる）とに分かれます。



■ 特徴的な症状

もの忘れ（比較的軽い）、位置関係や距離感がわからない、注意が散漫になる、物事を段取りよくこなせないなど、アルツハイマー型認知症と似た認知機能の障害も現れますが、それに加えて下記のものがこの認知症でよくみられます。

1) 実際にはない物が鮮明に見える(幻視)

よくみられるのは、人、小動物、虫などが見えるというものです。例えば、何もいないのに「リビングに子供が座っている」「床や壁に虫が大量にいる」「エアコンの上にネコがいる」といったようなことを言います。幻視に影響されて、『上の例で言うと』ジュースを準備したり、部屋中に殺虫剤を撒いたり、追いかけて外に出ていってしまうような行動がみられることもあります。



2) 時間帯や日によって認知機能が変わる(認知機能の変動)

例えば、いつもは普通に話をできるのに時間帯によってボーっとして話しかけても反応が少なくなったり、普段は家でトイレの場所がわかるのに日によっては場所がわからなくなるなど、普段できていることがたまにできなくなることがあります。

3) 運動の障害(パーキンソン症状)

動きが遅くなる、筋肉がこわばる、歩き方が前かがみになる、転びやすくなる、など運動の障害がみられることがあります。



4) 寝ているときの異常な行動(レム睡眠行動障害)

健康な人では夢をみているときに体の力が入らないようになっていますが、レビー小体型認知症では、夢をみながら暴れたり、大きな寝言を言うことがあります。特に怖い夢をみているときに起こりやすいといわれています。

5) その他



- 便秘、立ちくらみ、異常な発汗、失神（自律神経の症状）
- においがわからない（嗅覚障害）
- 気分の落ち込み（うつ）
- 「死んだ人が生きている」「偽物の家族がいる」といった妄想
- 体の異常な感覚（体感幻覚）
- 薬の副作用が出やすい

■ もしかして?とご心配な方は

レビー小体型認知症の症状には、他の病気と共通したものが多くあり、例えば幻視という症状をみても、せん妄、てんかん、アルコール依存症、シャルル・ボネ症候群といった多くの病気でみられる症状です。一つ一つの症状についての詳しい問診や、診察、検査により原因となっている病気を鑑別し、原因に応じた治療を行う必要があります。

(認知症医療センター長 井ノ口 貴俊)

お知らせ

[第1回第1回高山病院福岡県認知症医療センター 市民向け&専門職向けセミナーのご案内]

(開催日時) 令和6年3月16日(土) 13:00~

(会場) ユメニティのおがた小ホール

(参加費および参加定員) 無料・200名(先着順)

(プログラムおよび申し込み方法) ホームページをご覧ください。11月20日(月)より申し込み受付を開始いたします

(お問い合わせ先) 下記の認知症医療センターまでご連絡ください

[次号の予告]

- 次号(No5)では「前頭側頭型認知症について」を掲載いたします

[編集・発行]

医療法人 福翠会 高山病院 **福岡県認知症医療センター**

〒822-0007

福岡県直方市下境 3910-50 TEL 0949-23-0520 FAX 0949-24-0838

E-Mail takayamaninchis@gmail.com URL <https://nogata-fukusuikai.jp/>